



ITを活用した健康長寿社会づくりを目指す「ヘルスケア・イノベーション・フォーラム」が、このほど発足した。産学官が連携して健康産業の創出などに取り組むフォーラムの概要や将来像を、中核機関でもある四国経済産業局の堀口光地域経済部長(48)に聞いた。(報道部・鞆哲郎)

## ズームアップ 堀口 光氏

四国経済産業局地域経済部長

### ●ヘルスケア・フォーラムの狙い

## 地域医療の高度化と新産業育成

フォーラムの設立目的を。

堀口部長 健康医療分野の産学官が力を結集して地域医療の高度化と健康の維持増進を支援するのが目的。さらに新たな産業分野として健康関連産業を育成することも目指している。このフォーラムに類するものはほかになく、全国初の取り組みだ。

—香川に設置した背景は。

堀口 香川では全国最先端の健康医療関係の取り組みが、集中的に行われている。特に、県医師会が運営している遠隔医療ネットワーク(K-MIX)が存在していることで、医療機関のネットワークが最も進んでいる地域だ。こうした医療情報の統合は、

医療の高度化にとって重要なアイテムとなる。また、薬の情報電子化実験にも着手しており、病院、診療所、薬局を含めたネットワークが作られようとしている。

—ほかに特色は。

堀口 医療情報に加えて、健診データや普段の運動・食事履歴を入れようという動きもある。また、こうした個人情報管理するためのICカード(社会保障カード)の導入実証も高松で近くスタートする。この3つの大きな枠組みが存在していることが重要だ。

—フォーラムの活用方法は。

堀口 直近のケースだと、治験の取り組みがある。新し

い薬や医療機器を市場に出すには効果を実証しなければならぬが、すごく費用と時間がかかる。ここに今回の医療ネットワークを使えば、90ぐらいの医療機関が対象となり、一括してデータがもらえる。これは、新しく薬や医療機器を世の中に出す実証フィールドになる。

—国の支援の狙いは。

堀口 最大の目的は、新産業創出や地域活性化。さらに、現代病として生活習慣病などが増加傾向だが、社員が健康であることは、産業界にすぐくインパクトがある。香川で全国モデルとなるプロジェクトが進められることを期待している。